

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774800033		
法人名	有限会社 美ら心		
事業所名	グループホーム あさぎりの里		
所在地	沖縄県宮古島市下地洲鎌518-1		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4774800033-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主治医と相談しながら、内服薬を減らし薬に頼らないで入所者個々の性格・人格を尊重し介護していく事で、少しでも認知を改善していく。
地域住民との交流を図る為、地域で行われるデイサービスの参加、児童館の訪問をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、平屋で屋内の間取りや採光、風通し等に配慮がなされ、広々とした庭は、利用者が歩行訓練や散歩を楽しむ場となっている。ケアの基本は、健康管理に重点が置かれ、毎月主治医から利用者の日常生活の留意事項や薬の処方等を記録した「訪問診療報告書」を受理し、医療機関との連携を構築すると共に、看取りの実施においても積極的な検討がなされており、利用者や家族の安心が得られている。偶数月には、担当職員から利用者の近況報告や写真を同封した「家族だより」を送付し、特に島外に住む家族から喜ばれている。事業所は、職員の資格取得や各種研修参加を推進し、就業環境の整備に努めている。更に今年度は、地域住民との交流に向けて利用者と共にミニデイに参加する等の努力が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年1月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に自信自立を持たせる為、職員同士に話し合いをさせ理念に沿った介護を実践させている。入所者の状況に応じ主治医に相談、家族に連絡をとったり、職員が一人ひとりに寄り添い安心した生活が送れるように支援しています。	事業所開設時において、管理者と職員が話し合い、地域密着型サービス事業所の意義をふまえて作成した理念を継続して掲げている。理念は、フロアに掲示して職員で共有し、「その人らしく過ごせるよう」に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の利用者が地域との交流が出来ないか、市町村担当者と相談しました。地元公民館にて社会福祉協議会が開催するミニデイサービスに地域住民との交流のため月1回参加し、幼馴染や地域の方と健康体操・ゲーム・お茶の時間を楽しんでいます。	地域の児童館訪問やミニデイへ利用者と共に参加したり、地域の子供達によるボランティア訪問や近隣住民が立ち寄り、利用者と一緒に楽しむ等、住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望や見学時に、認知症についてのアドバイスをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回運営推進会議を三月に、第二回を十月に開催しました。市担当者、地域代表が参加し活動報告、外部評価結果の改善項目について話し合いました。	運営推進会議は、市の担当者や地域代表者等が参加し、今年は2回開催している。会議では、活動報告と外部評価結果や事故報告が行われているが、委員からは詳細な報告資料の作成を望む意見が出されている。会議には、利用者や家族の参加が得られていない。	運営推進会議は、法定事項として2か月に1回以上の開催が求められており、今後は定期的な開催と利用者や家族の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは連絡を取り合い、他の施設からの移動など連携している。他の施設での虐待や地域の人によるイジメなどによる利用者の受け入れ。	市の担当者には、毎月利用者状況を報告し待機者の情報交換や職員の研修派遣手続き等で協力が得られている。また、地域包括支援センターとは、生活保護や権利擁護等、事業所の困難事例を相談し助言や協力を得ている。市の依頼により、台風等災害時に地域要援護者の避難場所の指定を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠・拘束など行っていません。玄関開閉時のブザーや裏口に鈴等を付けて対応している。外に出て行く入所者には一緒に散歩したり車でドライブしたりと対応している。	身体拘束をしないケアについては、勉強会を設け、「言葉による拘束」等、職員の共有認識を図っている。事業所は、家族に対し「日中の玄関の施錠や過剰な睡眠剤服用」等も拘束に当たる事やリスクについても説明し理解が得られている。	

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	入所者の状態を観察し、少しでも異常があれば職員間で話し合いを持ち、家族に連絡し主治医に相談している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、プリントにまとめた物を職員に配布し読んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時に説明し、解約時にも時間をかけて御家族とも相談し対応方針も含めて納得が得られるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来所持には、御家族とのコミュニケーションを率先してとるよう職員全員が心がけています。入所者の希望、家族への電話、外出等は迅速に職員が対応している。	利用者の要望は、日々のケアを通して把握に努め、「夜中にテレビを見たい」等の訴えに個別に対応している。また、家族からは、面会時や支払い等での来所時に聞くようにしており、「運動量を増やしてほしい」等の声を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回開催して意見・希望を聞いています。ミーティングで勤務体制の見直しや介護方針など自由に意見交換している。又勉強会では入所者、一人ひとりの対応について話し合っています。	管理者は職員の意見は、毎月のミーティングや個別に聞いている。職員から、利用者の状況把握にウィクリーシート活用や休憩時間の確保が提案され、現在試行中である。また、事業所は、職員の資格取得の推進や研修参加等を支援し、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境、自由に意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。資格をとる職員には勤務を皆でカバーしながらできるよう条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本島での認知症研修会や地域・他施設での勉強会等に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との職員間の交流を積極的に行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より本人の意見には耳を傾け不安や困った事がある場合には、ミーティング等を行いその人にあった対応ができるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時、申し込み時には面談をし、入所後も御家族の話に耳を傾けどのようなケアがいいのか話し合いながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時、申し込み時、本人、御家族の実情や希望にできるだけ対応し、その都度御家族と連絡・面談しサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしながら話をしたり、利用者の表情によっては居室で話を聞いたり、話すやすい環境作りを心がけています。 職員の個人的な悩みを聞いてもらい、励ましの言葉を貰う事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会される御家族も多く、入所者の現状を伝えながら今後の要望など話し合っています。御家族が遠方で面会に来れない方には、電話をするようお願いし、本人からも電話させています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で自宅や畑など本人の住み慣れた地域に行ったりしている。月数回、各々車で自宅や畑に訪問したり、各自の誕生会には家族に連絡したりして関係継続の支援をしている。	利用者の地域社会との関係性は、本人や家族、面会に訪れる友人や地域ミニデイに参加する住民等から把握している。利用者が働いていた場所等をドライブ時に立ち寄る等の支援をしている。また、教会への外出や友人等の訪問を受け入れる等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルに差がありますが、職員が間に入り一緒に作業をしたりレクをしたりしています。元気な入所者には車イスを推してもらったり、他者の話を聞いてくれるようお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移動後も訪問したり情報交換をし連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・御家族の意見を聞きながら、本人が生活しやすい環境づくりに努めています。帰宅願望の強い入所者には一緒にドライブ・散歩をしている。また御家族に連絡し面会を増やしたり外泊したりして本人が安心するように対応している。	利用者の意向は、アセスメント作成時や職員を担当制にして日頃から密に関わり、「病院に行きたい」等の意向に対応している。また、難聴や表出が困難な場合は、家族からの情報や利用者の言動、表情等から思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を尊重して、御家族からの情報など聞きながらその人に合った環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事時間・入浴等各々のライフスタイルに合わせた時間で対応して、できることは自分でやってもらいその人の時間を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族・主治医の意見を聞き職員全員でモニタリングを行い入所者主体の暮らしに反映した者にできる限り近づけた計画を作成している。御家族の面会時に入所者の生活を伝え介護計画におけるサービス提供内容の確認を行っている。	介護計画は、担当者会議に利用者や担当職員等が参加して作成しているが、家族の参加は無く面会時等に内容を説明し、同意を得ている。また、介護計画は、毎月モニタリングを実施し、更新時の見直しと状況変化に応じ、随時に見直している。	介護計画は、利用者や家族の意見を反映させて作成する事が基本であり、担当者会議への家族の参加に向けた取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々の日々記録をし居室担当を決め、職員間で情報を提供しながら本人にとって満足できるケアができるように検討し計画を立てている。申し送り張りに主治医からの介護・日常生活上の留意点を記入し、職員に知らせている。		

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて御家族に差し入れを持って来てもらったり、外出・外泊等も積極的にしてもらおうよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に行き馴染みになり店員さんとの会話や施設前を通る人との挨拶などしている。地域の敬老会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の主治医との関係を大切にしながら、受診に行ったり、往診に来てもらっています。かかりつけ医の往診が月二回行われている。緊急時には職員が対応するが、他の病院の受診時は家族で対応してもらっています。管理者が日常的にDrと連携を図っている。	受診は、これまでのかかりつけ医を利用し、家族対応としているが、家族が島外や独居利用者の場合は、訪問診療を月2回、職員対応で支援している。医師から毎月「訪問診療情報」が交付され、連携が図られている。家族には電話や面会時に、受診結果等の報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各々の体調や些細な変化を見逃がさないよう、気づいたことがあれば管理者に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はたびたび病状確認に見舞い、主治医と相談しながらできるだけ早く退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と面談し文章を取り交わしている。施設自信は、御家族の意向があれば看取りを行っていく方針である。	事業所は、看取りの方針を作成し、利用者家族にアンケートを実施し、事前確認書（同意書）を得ている。今後は、職員の研修等を強化し実施する予定である。家族とは、状況に応じ段階的に確認し、合意を得る仕組みが築かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急緊急時の対応マニュアルを作成し勉強会や話し合いを行い対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成23年12月に避難訓練（夜間想定）を実施し、平成24年8月に自主避難訓練と消火器の使い方の練習を職員全員で行い消防署に届けてあります。台風時には早めの対応はできています。スプリンクラー・緊急通報装置は設置済み。避難場所については、燐家の敷地内に避難できるようにお願いしてあります。	今年度は消防署の協力で夜間想定訓練と自主訓練を実施し、避難場所として隣家の庭の使用同意が得られている。緊急通報装置等の整備や点検が行われ、居室のタンスには転倒防止策が施されている。諸災害のマニュアルの見直しと食糧等の備蓄を今後の検討課題としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには名前呼びかけ、言葉かけの内容・語調には十分注意し入所者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねる事がないよう取り組んでいる。排泄時はカーテンやドアを閉めてから介助する事を徹底指導している。排泄の失敗が見られてもプライドを傷つけないようにそっと片付けをしている。	利用者本位を基本とし、利用者に対し人生の先輩として接し、プライドを損ねないような言葉使いに留意している。管理者は、職員の言動やケア等において、理念に立ち返るよう助言を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活パターンを把握して、本人が自分の希望を訴え決定できるように環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の仕事の流れはあるが職員の仕事を優先するのではなく、入所者の体調や気分にも配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人には好きな服を選んでもらったり、選べない方には御家族から好みを聞いたりしてその人らしさをだすようにしている。外出時には、お化粧できるように化粧品を準備してある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれない物は別のメニューに変更したり、入所者が楽しくなるように職員と一緒に会話しながら食事しています。入所者・職員は食材の買い物・調理の下ごしらえを一緒に行っている。出来上がった料理をお椀によそってもらったり、食後のお膳拭きは担当がいて声かけするときれいに拭いてくれる。ドライブ時にはファーストフードを一緒に食べて帰ってきます。	朝食の副食は配食を利用し、昼夕食は専属の調理員が調理。食材の買い出しに利用者も一緒に行ったり、配膳等の役割を担っている利用者もいる。食器は陶器を使用し、食事中はテレビを消し、職員も一緒に食事を摂り、会話や雰囲気を楽しむ工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々好みによりキザミにしたり、状態によっては主治医相談しトロミにしたりしている。食事量や水分摂取量は毎食チェックして体調の変化には気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室で歯みがき・うがい薬で口腔ケアを行っている。入れ歯は週二回ポリドントを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便チェック表を活用しながら一人ひとりのパターンを把握し、声かけ誘導し失敗しても傷つけないよう手早く交換している。各々の排泄パターンを把握し、紙おむつを減らすように取り組んでいます。	日中は全員トイレ誘導し、排せつの自立に向けた支援が行われており、オムツ使用から布パンツに移した事例がある。トイレ内に尿パットを常備し、速やかに対応する工夫がなされている。日中女性は、同性介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、おやつ時に寒天を作り食べてもらったり食物繊維・水分・緩下剤等を使い分けています。往診時に主治医に排泄表を確認してもらい便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、各々の体調を考慮しながら好きな時間に入ってもらっている。入浴は同性介助で対応している。入浴拒否する入所者には無理強ひせず、時間において声かけし本人が納得してから入ってもらっています。	基本は週2回の入浴日であるが、現状は利用者の希望により何時でも対応しており、女性は同性介助が行われている。入浴しない日は、足浴で対応している。また、入浴を嫌がる場合は、時間をずらして声かけする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に消灯せずに本人の様子を見ながら誘導するようにしている。冬場は足浴・マッサージを行いリラックスした時間を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬剤情報は職員の見やすい所に保管し薬効や副作用を理解し、状態の変化が見られたら管理者・主治医に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々好みが違うが、ドライブ・ボール遊び音楽等多くの入所者が参加できる事を見つけ楽しむように支援している。		

沖縄県（グループホームあさぎりの里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各々の体調や希望に沿って無理のないようできるかぎり外出・外泊の支援をしている。現在は入所者が高齢化して一人で外に出る人が少なくなったのでドライブ、食事を兼ねて外出し気分転換をしている。	毎週の教会での礼拝や馴染みの美容室の利用等を家族と共に支援している。また、近場をドライブし外食を楽しんだり、弁当を持参で遠足や地域のハリー見物等を行い、気分転換を図っている。個別の外出は今後介護計画に組み入れ、支援の強化を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいませんが一緒に買い物に行ったり、頼まれた商品を買ってきたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により家族に電話したり、荷物が届いた時にはお礼、近況報告をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが安全・安心して過ごせるように、居心地の良い空間作りを工夫している。施設の設計段階から関わり、採光・通気・廊下スペース・バリアフリー等、高齢者に配慮された作りとしている。廊下には入所者の写真を飾ったり台所・廊下にソファを置きゆったりとくつろげるようにしている。	広々とした廊下は、多目的ホールとして行事等にも使用し、利便性に配慮されている。屋内は、冷暖房設備を完備しているが、夏場は冷房の必要がない程風通しが良く、採光等居心地良い空間となっている。居間には、6畳程の高床の畳間があり、利用者の寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等は自然と座る場所が決まっています、食卓でも気の合った人が会話を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた寝具を持ってきたり家族からの手紙・写真等を貼ったりしている。施設ではベット・畳のみを準備し、いままで自宅で慣れたしんだ物を持参してもらうよう働きかけている。ベットの向きを変えたり、ベットを撤去してマットレスを使用している部屋もある。	居室には、ベッド、整理タンス、手洗い、各窓には二重カーテンが設置されている。利用者の状況に合わせ、2居室が畳やマット敷きになっている。また、私物の持ち込みが認められ、利用者の好みでレイアウトされ、居心地良い居室の工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の部屋に表札をつけ自分の部屋と分かる様にして、部屋の中も危険な物をできるだけ置かないようにしている。		